

大豆ねむり病に関する研究

第4報 罹病種子について

西沢正洋・木下末雄

(九州農業試験場・門司植物防疫所)。

莢においては包線に扁平，翼状の球柄が薄い被膜に覆われ，種子を莢腔内に懸垂し，その被膜内外に病原菌々糸は侵入後，珠柄と種子臍との接合部に達し，接合部に菌糸層を形成し，珠柄は隆起する。接合部菌糸は臍部の表皮中の上部柵状細胞内に侵入し，更に下部柵状細胞に達する。尙菌糸は維管束上部周辺よりも侵

入し，時計皿細細，柔組織，厚膜柔組織，種皮に菌糸は充満，ために厚膜柔組織，柔組織は崩壊淡褐色を呈する。罹病種子を殺菌土壤に播種した結果，約77%の発病株が認められた，本病は罹病種子による伝染が行われることが明らかとなつた。